

# 国際学術研究北京出張調査報告

王 宝 平

浙江大学日本文化研究所

筆者は「中国伝存の日本関係文献・文化財に関する総合的研究」というプロジェクトの協力者の一員として、2000年1月6日から同26日にかけて、和刻本漢籍や和書（いずれも大正以前の図書、以下同じ）を中心に、北京師範大学図書館、故宫博物院図書館、中国国家図書館、中国科学院図書館で調査を実施した。いまその調査結果を略報する。

## 1. 北京師範大学図書館

古籍の蔵書量において、全国の大学の図書館の中で10本の指に入る。目録が刊行されていないので、カードで一枚ずつ鶴の目鷹の目で探していくよりすべがなかった。その結果、次の本があることを確認できたが、和漢書のカードが混同されているため、漏れの方が多かったと思う。古籍担当者の話では、和刻本漢籍本と和書は少なくとも200点以上は有するという。今後の更なる綿密な調査を要する。

### 記

- 日本外史 頼襄撰 文政十年（1827）刻本 22冊  
日本楽府 頼襄撰牧輓注 文政十三年（1830）刻本 1冊 0.50元  
（増補）日本政記 頼龍三編 明治二十三年（1890）頼氏刻本  
和漢年契 芦屋山人撰 文化二年（1805）浪速書肆宣英堂刻本 1冊1函  
大日本史二四三卷 徳川光圀修 明治三十三年（1900）東京徳川刻本 25冊  
日本三代実録五十卷 源能有・藤原時平等撰 寛文十三年（1773）野田庄右衛門刻本  
20冊 60元  
近事紀略四卷 石津賢勤編 明治六年（1873）西京三書房刻本 4冊  
尊攘紀事八卷 岡千仞撰 明治十七年（1884）刻本 4冊  
尽忠録 斎藤馨撰 写本 1冊 1元  
（漢文）征清戦史 田村維則撰 明治二十九年（1896）鉛印本 1冊 2元

## 2. 故宮博物院図書館

古籍30万冊、善本10万冊、日本図書（洋装本）5,000冊を有するというが、大正と昭和前期の図書が半数以上を占め、しかも文物図録が中心である。かつての皇室の図書館のため、収集の重点は善本（貴重本）に置かれ、和刻本漢籍本などは除外されていたであろう、と容易に想像できる。調査した結果、次の2点が調査対象に符合することが分った。

### 記

大日本史二四三巻 徳川光圀修、嘉永四年（1852）刻本 100冊  
古語拾遺一卷 宿禰広成撰 明治三年（1870）刻本

## 3. 国家図書館（もと北京図書館）

所蔵の日本関係図書は、既刊の『中国館蔵和刻本漢籍書目』（王宝平主編、杭州大学出版社、1995年）、『中国館蔵日人漢文書目』（同、1997年）に所収されている。但し、蔵書量が多いため、遺漏も多々あるかと推測されている。その証拠として、次の一点が挙げられよう。

### 記

日本輿地通志六十一巻（別名：日本輿地五畿内志）

関祖衡編、享保二十一年（1736）刻本、清劉氏味経書屋写本、9冊2函、錦函、開化紙、大本、無罫線、原本の折り返し・奥付・小見出し・黒縁・地図などをそっくり模写した精写本である。

第1～3冊：山城国（10巻） 第4～5冊 大和国（16巻）

第6冊：河内国（17巻）第7冊：和泉国（5巻） 第8冊：摂津国（13巻）

劉喜海（乾隆五十八年・寛政五年1793～咸豊二年・嘉永五年1852）、字燕庭、書齋名は味経書屋で、『海東金石苑』八巻、『海東金石苑補遺』六巻、『海東金石存考』一卷など外国（朝鮮）の文物に対して強い興味を示した清朝の文人である。

彼はまた、『東国書目』で、「朝鮮書目」（92点）、「日本所刊書」（『群書治要』五十巻の提要および『佚存叢書』の子目）、「日本書目」（32類、307点）と分けて和書に対して中国人による最初の分類を試みた。

従来、中国人は漢籍について準漢籍に興味を示したものの、和籍についてはあまり関心が高かった。歴史書『吾妻鏡』が中国人に書写されたのは、いままで知られた唯一の例であろう。今度この写本『日本輿地通志』の発見により、地理関係の和籍も写された史実が明らかになった。六十一巻に亘る大部の本にもかかわらず、よくも書写、しかも精写されたものと感心する。劉のいままで知られなかった海外図書に対する関心の深さの一端を窺う好例となろう。

## 4. 中国科学院図書館

中国社会科学院の図書は中国科学院図書館にある。社会科学院の前身である北平人文科学研究所は、30年代に図書20万冊に達し、戦後、中央研究院歴史語言研究所に帰属。また、49年に貴重本が台湾に運ばれた。当図書館は51年に旧蔵書を受け継いで新たに発足、現在古籍50万冊くらい有するという。新館が建設中で、完成後、引越しすることになっているので、今の古籍は友誼賓館の近くにある仮施設内に保管され、半分閉館状態となっている。山ほどのカードから次の和書が検出できた。

## 記

徂徠集三十卷補遺一卷 荻生徂徠撰 元文（1736～1740）刻本 20冊2函  
 江陵詩集四卷 延享二年（1745）東都書林刻本 4冊1函  
 北禅文革四卷 积大典撰 寛政四年（1792）青藜閣刻本 2冊1函

以上、限られた時間と限られた範囲で行った調査のため、十分な成果を上げたとはいえないかもしれないが、中国の図書館に日本関連の図書が多数所蔵されていることはわかった。今後の更なる調査研究が必要だろうと痛感する。